

～横倉山植物調査 中間報告～

大利卓海*1・渡部雄貴*2・瀬戸美文*2・前田綾子*3・藤森祥平*3

*1株式会社 相愛・*2高知大学・院・*3高知県立牧野植物園

●背景・目的

横倉山は、高知県越知町に位置する標高約800mの山です。

横倉山には、約1300種の植物が生育している（亜種や変種を含める）とされています。

これまでに確認されている植物の種数は、

日本全国では約7000種、高知県では3000種（亜種や変種を含める）とされています。

つまり横倉山には、

日本の約20%、高知県の約40%もの種類の植物が生育しており、

植物の多様性が高い場所であることがわかります。

横倉山植物調査は、

現在でも多くの植物が横倉山に生育していることを確かめるために行われています。

●調査で出現した種の紹介（調査員の好み）

【イネ科イチゴツナギ属の紹介 担当：渡部】

イチゴツナギ属 *Poa* は大倉の調査においてミゾイチゴツナギ(*Poa acroleuca*)、スズメノカタビラ(*P. annua*)、オオイチゴツナギ(*P. nipponica*)、イチゴツナギ(*P. ochotensis*)の4種が報告されています。今回の調査では本属2種1変種を確認しました。



●スズメノカタビラ (*P. annua*)

ふつうにみられる1-2年草。高さ8-25 cm。葉身は鮮緑色で柔らかいです。花序は淡緑色で、一部がしばしば紅紫色に染まります。本調査地で見られた個体は最大高15 cm、他の形態もよく当てはまりました。一方よく似た種としてツクシスズメノカタビラ (*P. crassinervis*) がありますが、同種花序の解放度合い、第二苞穎の形態等がスズメノカタビラの特徴に当てはまるため本種と同一としました。



●アオスズメノカタビラ (*P. annua subsp. annua*)

この植物は学名がまだ定まっていません。一般にスズメノカタビラだと思われる植物の多くは、実はアオスズメノカタビラだと言われています。しかし分類にまだ議論があり、高知県植物誌においても両者は区別されていません。大倉もスズメノカタビラと同じものとして扱ったと考えられます。本種はスズメノカタビラよりも全体的に緑色で、1-2 cmの根茎があり節から発根します。



●オオイチゴツナギ? (*P. nipponica*)

アオスズメノカタビラと同所で採取されました。当初同じ種だと思いましたが、鋸歯があること、護穎に毛が多いことからこれは別種と判断しました。10 cm以上の走出枝をもつためツルスズメノカタビラ (*P. annua var. reptans*) を疑いましたが、これは高知県内に分布がありません。総合的な特徴からオオイチゴツナギの小さい個体としましたが、今後再検討が必要です。

【地面以外の場所で生育する植物 担当：瀬戸】

植物には、地面ではなく、木の幹や岩石の上、普段歩いている道沿いの壁などにくっついて生育する植物（着生植物）があります。「寄生植物」は、寄生先の植物から栄養を奪う植物ですが、「着生植物」は、ただ着生先の植物にくっついて育つだけの植物です。横倉山で見られる着生植物は、主にシダ植物の仲間・ラン科植物の仲間です。横倉山を散策するときには、ぜひ、地面だけでなく、木の幹や岩石の上、道のわきの壁もじっくり見えてみてください！かわい当着生植物が、沢山いますよ。

今回は、よく似た2種をご紹介します。



道路や木の幹に生育する着生植物

●マメツタ (シダ植物)

目にする機会が最も多い着生植物は、コレ！木の幹やセメントの壁にびっしりついています。ニョキと伸びているのは胞子がついた葉。茶色く見えるのが胞子です。この胞子はどこまで飛んでいくのでしょうか…



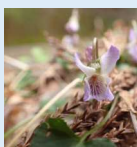
●マメツタラン (ラン科植物)

マメツタによく似た着生植物です。マメツタのようなラン、略してマメツタラン。名前の通りです(笑)。横倉山では、木の幹で生育しています。マメツタの葉は深緑色であるのに対し、マメツタランの葉は黄緑色です。写真ではわかりづらいですが、マメツタランの葉は、マメツタの葉よりもみずみずしく厚みがあります。マメツタランの花期は5-6月（もうすぐです！）、薄黄色の小さな花を咲かせます。

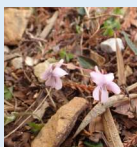


【多様なスマイル 担当：大利】

横倉山には、多様なスマイルも生育しています。かわいらしい花を咲かせるため非常に人気があります。



アオイスミレ



シハイスミレ



タチツボスミレ

●横倉山に生育する特徴的な植物

植物は、種によって、明るく場所が好き、暗く場所が好き、湿った場所が好き、乾燥した場所が好き…など、性格が異なります。

植物は、自分の性格に合った環境がある場所で生育します。

例えば、明るく環境を好む種は、日当たりの良い草地で生育し、暗い環境を好む種は、暗い林床で生育します。

横倉山の地質は特徴的で、石灰岩や蛇紋岩などの岩石が多く分布しています。

これにより横倉山では、特徴的な植生（ある場所の植物の集まり）が成立します。

石灰岩は、高いアルカリ性の岩石、蛇紋岩は、植物の栄養となる物質をあまり含んでないことに加え、植物にとって有害なニッケルを含む岩石です。

そのため石灰岩上には、「石灰岩植物」と呼ばれる、石灰岩の高いアルカリ性に耐えられる植物のみが生育できます。

ヨコグラノキも、石灰岩植物の1種です。

他にも、蛇紋岩上には、「蛇紋岩植物」と呼ばれる、乏しい栄養量・ニッケルに耐えられる植物のみが生育することができます。また、横倉山は、牧野富太郎博士が調査フィールドとした地としても知られており、ヨコグラノキなど、牧野富太郎博士が横倉山で発見・命名した植物が多く生育しています。

このような植物が生育していることが横倉山の植物の多様性が高い理由となっています。



明るい環境を好む スマイル



陰った林縁を好む ユキモチソウ



石灰岩植物 クロガネシダ



蛇紋岩博士命名植物 ヨコグラノキ

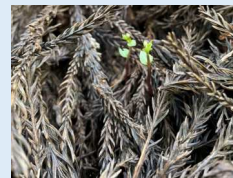
●調査結果

2020年7月25日～2021年3月11日の期間の調査で79科162種の植物が確認されました。

希少種は、コオロギラン、ベニカヤラン（マツラン）、マメツタラン、ムギラン、ヤシャビシヤクなどが確認されました。



マメツタラン *Bulbophyllum drymoglossum*

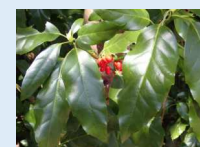


コオロギラン *Stigmatodactylus sikokianus*

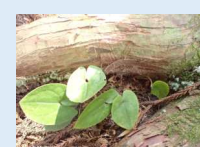
科	種名	科	種名	科	種名
ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	アヤメ	シヤガ	アオイ	ラセンソウ
トクサ	トクサ	ヒゴトバ	ノビル	アブラナ	オナモミ
ハナヤスリ	ハナヤスリ	ウツクサ	ウツクサ	セキショウ	タネツケ
ゼンマイ	ゼンマイ	イネ	イネ	キョウキソウ	ミズヒキ
コケシノブ	コケシノブ	ススキ	ススキ	ナデシコ	ウツハコメ
ウラボシ	ウラボシ	コウキョクソウ	コウキョクソウ	コノハ	ミドリハコメ
ホウゴクシダ	ホウゴクシダ	アケビ	アケビ	アズミ	ミミズクサ
イモトソウ	イモトソウ	アケビ	アケビ	アザミ	ナリウツク
コバノイシカグマ	コバノイシカグマ	アケビ	アケビ	アザミ	サカサ
チャセンシダ	チャセンシダ	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
シシガシラ	シシガシラ	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
オシダ	オシダ	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
マツ	マツ	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
ヒキ	ヒキ	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
イチイ	イチイ	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
マツサ	マツサ	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
ドクダミ	ドクダミ	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
ワノメ	ワノメ	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
モクレン	モクレン	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
クスノキ	クスノキ	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
サトイモ	サトイモ	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
サルトリイバラ	サルトリイバラ	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
ユリ	ユリ	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ
ラン	ラン	アケビ	アケビ	アザミ	アザミ



クサイチゴ



アオキ



ナンカイカンアオイ

●調査方法

●種名の記録

横倉山博物館～第3駐車場までの町道沿いの植物、第3駐車場～馬鹿だめしまでの林内の植物を記録しました。

●標本作成

出現した植物のうち、花や実がついている種について、さく葉標本（押し葉標本）を製作しました。



調査風景



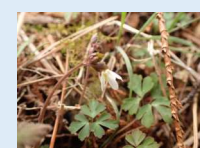
種名の記録



標本の仮押し



標本作製



ヒメウス



スギナ